

2016 年 9 月 16 日

成績発表ガイダンス 1 回生用配布資料

ダブルメジャー実施要項・・・P 1

プロジェクトスタディ受講要項・・・P 3

後期受講登録にあたって・・・P 15

ライティングリテラシーについて・・・P 19

産業社会学部

産業社会学部 1 回生 ダブルメジャー実施要項

※2 回生は 2 回生用の要項を参照してください。

ダブルメジャー制度の理念

産業社会学部のダブルメジャー制度は、学部発足以来の理念である「学際的な学び」を具体化する一つの形です。現代社会を取り巻く諸課題は、さまざまな問題から複雑に構成されてきており、単一の専門分野の理論や知見のみから解明していくことに不十分さや限界が生じてきています。産業社会学部は 5 専攻制の下、所属する専攻の専門分野と共に他専攻（以下、サブメジャー専攻）の専門分野を学んでいく事で、現代社会に複眼的な視座と知見で迫っていくことを目指します。

1. 履修申請対象者

産業社会学部 1 回生

2. 履修開始時期

2 回生前期

3. 履修方法と単位授与

所属専攻以外のサブメジャー専攻の専門科目を 20 単位以上（うち、専門導入科目 2 単位以上）修得し、卒業要件を満たした場合、「ダブルメジャー」修了として修了証を卒業時に授与します。

(1) ダブルメジャーの履修方法

- ①ダブルメジャー履修希望者は、定められた期間内に履修申請してください。サブメジャー専攻は、1 専攻のみ選択できるものとします。
- ②履修が許可されれば、次年度より、サブメジャー専攻専門科目 20 単位以上（うち、専門導入科目 2 単位以上）を卒業までに修得できるよう各自で履修を進めてください。履修許可者は、コア科目を除いたサブメジャー専門導入科目を履修することができます。
- ③履修を希望する科目は、各自で受講登録してください。専門導入科目についても、ダブルメジャー履修許可者は各自で受講登録が可能です。
- ④所属専攻とサブメジャー専攻で同一科目が専門科目として配置されている場合、所属専攻として授与されるためサブメジャー専攻科目として履修することはできません。
- ⑤サブメジャー専攻専門科目であっても、資格課程履修者のみが履修できる科目など、各専攻が定める以下の科目については履修することはできません。

<注意> 子ども社会専攻をサブメジャー専攻としても、小学校免許は取得できません。同様に人間福祉専攻をサブメジャー専攻としても、社会福祉士課程を受講することはできません。

<履修不可科目>

専 攻	履修できない科目
スポーツ社会専攻	「スポーツ教育論実習Ⅰ～Ⅳ」「スポーツ心理学Ⅲ・Ⅳ」 「スポーツバイオメカニクスⅢ・Ⅳ」「生理学」「衛生学」 ※但し、教免「保健体育」履修者は上記科目を履修可能です。
子ども社会専攻	「子どもと学習指導領域」の全科目、「実習科目」全科目、 「小学校英語教育研究」、「小学校英語授業研究」
人間福祉専攻	「実習科目」の全科目 *「ソーシャルワーク科目」はダブルメジャー履修制度の科目に含まれません。

(2)ダブルメジャー履修の概要

必要単位数	サブメジャー専攻専門科目 20 単位以上(うち、専門導入科目 2 単位以上)
授与単位数	修得した単位数全て
単位授与分野	自由選択科目※1
単位授与対象者	ダブルメジャー履修申請をした学生のみ。
認定方法	上記必要単位数を修得した場合、ダブルメジャー修了を認定する。 ただし、最終的に 20 単位に満たなかった場合も、修得した単位は自由選択科目として授与する。

※1: 子ども社会専攻で小学校一種免許状の取得を目指す場合、「子どもと学習指導」科目が自由選択分野での認定となるため、卒業に必要な 124 単位の範囲内で、サブメジャーを履修することはできません。124 単位を超えてダブルメジャーを目指すことはできません。

4. 履修申請方法・申請期間・結果発表

(1)申請方法

プロジェクトスタディと同じ WEB ページを使用して申請を行います。

申請用 WEB ページへのアドレスは 9 月 16 日(金)午前 10 時に CAMPUS WEB 掲示板の「履修」「受講登録・試験・成績」カテゴリに配信します。

※今回ダブルメジャー申請を行わない場合でも、2 回生時に申請することができます。

但し、1 回生時に申請した内容の変更はできません。また、2 回生時の申請では、申請時期の関係から、3 回生から始まるゼミ選択においてダブルメジャーゼミを選択できません。ゼミ選択においてダブルメジャーゼミを受講したい場合には 1 回生時に申請する必要があります。

(2)申請期間

9 月 16 日(金)午前 10 時から 10 月 3 日(月)午後 5 時まで

※運用停止期間: 水曜日 PM7:30~AM5:30、水曜日以外 AM4:30~AM5:30

※申請期間中は何度でも変更できますが、締め切り後の変更はできません。

※11 月中旬までに申請内容を CAMPUS WEB へ配信します。必ず、申請内容が間違いないか確認してください。万一間違いがあった場合は、CAMPUS WEB への配信メール内に記載されている期日までに産業社会学部事務室へ相談に来てください。期日以降はシステムの関係上、相談に応じることができません。

(3)結果発表

1 回生後期成績発表時(3 月下旬)

5. ダブルメジャー履修申請を許可された場合

(1)サブメジャー専攻「専門演習」の履修について

3 回生から始まる「専門演習」は、所属専攻ゼミ、学部共通ゼミ、国際ゼミから選択することになりますが、ダブルメジャー許可者はサブメジャー専攻のクラスを選択することが可能になります。

※サブメジャー専攻の「専門演習」を選択できるのは、1 回生時にダブルメジャーの申請をした学生に限ります。

※過年度「専門演習」クラスの情報については、以下 WEB ページを参考情報としてください。

産業社会学部「在学生のみなさまへ」ページ → ページ右側「専門演習」各年度特設ページ

(2)サブメジャー専攻の専門導入科目の履修について

本来、他専攻の専門導入科目は履修できませんが、ダブルメジャー申請者はサブメジャー専攻の専門導入科目(コア科目除く)の履修が可能になります。

以上

2017 年度
産業社会学部
プロジェクトスタディ I A・II A
受講要項
(現 1 回生は全員手続が必要です)

産業社会学部

I.「プロジェクトスタディⅠA・ⅡA」とは

1. 科目の目的

「プロジェクトスタディⅠA・ⅡA」は、学生の皆さんが、産業社会学部の教学の特徴となっている“専門性”と“学際性”とを共に深めて立体的な学びを展開していく基礎体力を養成する仕掛けとして、2008年度より開設された新しい科目です。

「プロジェクトスタディⅠA・ⅡA」はまず、1回生「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」で培った学習集団、生活集団、学部で学ぶための基本的なスキルや方法を踏まえ、各専攻の講義科目の学修に平行して各自の専門テーマを3、4回生の専門演習へと発展させていくための、基礎的な学びの舞台です。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」から卒業研究までの小集団教育の中で、段階的に学びの“専門性”を深めていく過程の一段階に位置づけられています。

他方でまた「プロジェクトスタディⅠA・ⅡA」は、“クロスオーバー・ラーニング”を具体的に展開していくための導入的役割を担っています。“クロスオーバー・ラーニング”とは、専門的な学習を核としつつ他の研究領域との関連付けを通じて学びを立体化し学際化するという、産業社会学部ならではの学びのスタイルです。2回生以降次第に深まっていく専門的な学びを一層立体化し豊かなものとするために、学部が持つ幅広い研究分野へと視野を拡大し、学びの“学際性”を獲得していく舞台となります。

“専門性”と“学際性”を共に深めて産業社会学部での学びを立体的で豊かなものとしていくための跳躍台となるのが、「プロジェクトスタディⅠA・ⅡA」の目的です。

2. 科目の内容

「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」から「卒業研究」に至る小集団教育の一連の段階の中で専門的な学びを深めていき、同時に、複数の学びの領域にまたがり積極的に“クロスオーバー・ラーニング”を展開して、実り豊かな学びを築いていこうとすると、知的基礎体力がなおさら重要になることは言うまでもありません。そこで「プロジェクトスタディⅠA・ⅡA」では、それぞれの専門分野における基礎的な文献・資料の読解と的確な表現力をトレーニングすることを通して、産業社会学部での広範で多様な学びの根底にある《アカデミック・リーディング》と《アカデミック・ライティング》の能力を形成することに最大の重点を置くこととしました。

ところで、産業社会学部のすでに確立された学びのスタイルとして“アクティブ・ラーニング”があります。大学・学部の内外に行動的・現場的な学びの場を設定する“アクティブ・ラーニング”の手法は、現代社会の提起する現実のさまざまな社会的問題群に諸学の成果を総合して実践的に応答しようとする産業社会学部の教学理念を現実化したものです。「プロジェクトスタディⅠA・ⅡA」は、“アクテ

「クロスオーバー・ラーニング」を含め、産業社会学部における学びを“クロスオーバー・ラーニング”を通じて立体化することのできる基礎体力の形成を目指して、開設するものです。3・4回生でのゼミ選択に際してどのような専門分野と学びを選び取るにせよ、文献や資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力が必須であることは言うまでもないからです。その意味で、「プロジェクトスタディⅠA・ⅡA」は、学生の皆さんが産業社会学部での学びを構築していく上で非常に重要な位置に置かれていると考えてください。

3. 学修の進め方

繰り返しになりますが、「プロジェクトスタディⅠA・ⅡA」を通じて学生の皆さんに獲得してほしいと考えている能力とは、基礎的な学術的・専門的能力です。それは、学術的な文献や資料に記されている内容を正確に理解し、その根拠を批判的に検討し、そのようにして理解した内容を的確に表現して、誤解なく他者に伝える能力です。ですから、「プロジェクトスタディⅠA・ⅡA」はまさしくそのように進められていきます。文献・資料を読み、論述の根拠を批判的に検討して納得のいくものかどうかを明らかにし、あるいは他の可能性を吟味し、自ら調査して得た事実・データを付け加えるなどして、最後にそのような考察の内容を整理し論述を組み立て、他者に伝える文章を構成するわけです。まさしくそのような、根拠に裏付けられたコミュニケーション能力こそが、皆さん自身の知性を育て、確信と根拠を持って皆さん自身の主張や意見を展開し、他者への論理的説得を成功させる力量の基礎となっていくのです。「プロジェクトスタディⅠA・ⅡA」でのトレーニングは、決して派手なものではなく、むしろかなり地味で受動的だと感じるかもしれません。しかしそれは、産業社会学部での学びを通じて皆さん自身を成長させていく上で、絶対的に必須な知的資質を獲得することを目指しています。是非ともこれをやり抜いて、自分自身を成長させるチャンスとして活かして下さい。

「プロジェクトスタディⅠA・ⅡA」では、各専攻の中に特定の主題に取り組む「分野」を設けます。そして各「分野」に配属される複数の教員が担当するクラスを「プロジェクト」と呼びます。つまり、各「分野」の中に複数の「プロジェクト」が作られるわけです。各「分野」の中では、すべての「プロジェクト」が基本テキストを共有します。学生の皆さんは、「分野」を選択し、いずれかの「プロジェクト」に所属することとなっています。

(1)「プロジェクトスタディⅠA」

学生の皆さんは、まず前期の「プロジェクトスタディⅠA」で、自身の所属専攻のいずれかの「分野」・「プロジェクト」に所属します。自専攻の「分野」・「プロジェクト」において、上述のように専門的な学びを深めていくこととなります。

(2)「プロジェクトスタディⅡA」

次いで後期には、「プロジェクトスタディⅡA」において、自身の所属専攻に関係なく、すべての開設されているいずれかの「分野」・「プロジェクト」に所属します。前期に所属した「分野」・「プロジェク

ト)以外であれば, どの専攻の「分野」にでも応募することが可能です。自身の学びのテーマや方向性をよく考えつつ, “クロスオーバー・ラーニング” を通じて学びを立体化する実践の機会としてください。

《 前期「プロジェクトスタディⅠA」》

現代社会専攻所属学生	→	現代社会専攻 「分野 11」「分野 12」「分野 13」「分野 14」
メディア社会専攻所属学生	→	メディア社会専攻 「分野 21」「分野 22」「分野 23」
スポーツ社会専攻所属学生	→	スポーツ社会専攻 「分野 31」「分野 32」
子ども社会専攻所属学生	→	子ども社会専攻 「分野 41」
人間福祉専攻所属学生	→	人間福祉専攻 「分野 51」「分野 52」

《 後期「プロジェクトスタディⅡA」》

現代社会専攻所属学生	→	所属専攻に関係なく, すべての専攻の分野から選択できます。 (ただし, <u>前期と後期で同一の分野に所属することはできません。</u>) * 各専攻の「分野」は前期と同内容です。
メディア社会専攻所属学生	→	
スポーツ社会専攻所属学生	→	
子ども社会専攻所属学生	→	
人間福祉専攻所属学生	→	

4. 成果物の作成

「プロジェクトスタディⅠA・ⅡA」では, 上述のように, 《アカデミック・リーディング》と《アカデミック・ライティング》の基礎能力を育成するという観点から, 学びの成果として客観的なアウトプットを重視します。そこで, 学生の皆さんはセメスター終了時点で分野毎に定められた「成果報告レポート」を提出します。

5. 成績評価

成績評価は, 日常点と上述の成果報告レポートにもとづき, 5段階評価(A+, A, B, C, F)で行います。日常点と成果報告レポートの評価上のウェイト配分については, 各「分野」で共有します。また, 成績評価についても, 「分野」ごとに大きな差が生じないよう一定の共有性を持たせることとしています。

Ⅱ.「プロジェクトスタディⅠA・ⅡA」のテーマ

〔現代社会専攻〕

現代社会専攻では、今日の社会に関わる重要なテーマを、なるべくみなさんがアタックしがいのある文献・資料を使って、読み解いていくことをプロジェクトスタディの目標としています。そして今後、レポートや論文を書く際に、ここで会得したコンセプトが、思考や、分析や、表現としてうまく生きるように、とも願っています。四つの分野をみなさんに用意しており、それぞれは、専攻のなかの三つの領域（社会形成、環境社会、社会文化）、および三つに共通する領域（国際化）に対応させて設けています。今後学習を目指している領域に対応させて、分野の選択をおこなうこともできますし、別の領域を選択することもできます。

なお、参考までに過年度の各分野の使用文献を下記に示しておきます。2017年度の使用文献については来年度のシラバス(2017年3月公開予定)を参照してください。

分野 11:「国際化から現代社会を読み解く」(共通領域から)

現代社会の特徴は何かと、問われれば、それは経済や社会の国際化だというのが、正しい答えの一つになるだろう。なるほど、日本の経済は、中国やアジア抜きにしては成り立たなくなっている。もちろんアメリカとの関係も重要だ。経済だけではない。人のグローバルな移動も盛んとなってきた。ここでは、人が母国を離れ、ある場所に定住し始めたとき、その社会では何が課題となってくるのか。またその人は、その社会の中でどのような位置を占めるのか。そんなことを学んでみたい。また、世界には貧しい国も多い。そんな国の人たちに私たちが、何ができるのか、そんなことも学んでみたい。国際化は、社会に、また人々に様々な影響をもたらしている。それに対して私たちはどう対応していけばいいのか、そんなことを考えていくのがここでの課題となる。否応なく、私たちは国際化の嵐の中にいる。考えねばならないことは多い。

《参 考》 2013～16 年度使用文献:マンフレッド・B・スティーガー『新版グローバリゼーション』(岩波書店、2010)／2012 年度使用文献:梅森直之編著『ベネディクト・アンダーソン グローバリゼーションを語る』(光文社新書、2007)

分野 12:「<格差社会>に立ち向かう」(社会形成領域から)

格差問題が人口に膾炙されるよう(大きな社会問題)になってもう十年近くになります。日本社会は、ほんの四半世紀前までは「一億総中流」といわれ、「豊かな社会」を謳歌していましたが、バブル崩壊(とその後の「失われた 20 年(あるいは 30 年)」の長期不況)を契機に随分と様変わりしました。「勝ち組、負け組」などという嫌な(!)言葉が世間をにぎわせ、貧困問題が政治の俎上に上ったことを覚えている人も多いでしょう。現代社会専攻に学ぶ君たちが、こうした格差の拡大の背景にあった政治や経済の変化を知るとともに、社会や個人の生活にどのような問題をもたらしているのかを学び、その克服の道筋を考えていくことは非常に意義あることだと考えます。そして格差の問題は、経済や政治にとどまらず、家族、教育、仕事、ジェンダー、世代等々、様々な角度からアプローチできる(しなければならない)テーマです。格差問題を考えるなかで「新しい人間と社会(新たな生き方と社会の再構築)への視座」を獲得する意気込みで勉強してもらいたいと思います。

《参 考》 2012～16 年度使用文献:橋本俊詔『格差社会—何が問題なのか』(岩波新書、2006)

分野 13:「<持続的な社会>を構想する」(環境社会領域から)

この分野では、持続的な事物、社会を構想する論理、意味について学習します。持続的な社会となるためには、単に「永く」維持されるというより、世代交代を通じて、繰り返し維持されるということが重要になってきます。言葉を変えると「永続的な循環」を生むシステムということになります。具体的対象は、世代を超えて住み続けられる「村」「町」「地域」のデザイン。あるいは循環的に(サイクリックに)再生できる森林の育成と利用、さらには数百年にわたって持ち主が利用できる「住居」の建設などです。個人は死滅しても人類は残る、といった問題も関係します。具体的作業は文献講読ですが、短いサイクルで変転する社会にあって、瞬間的な輝きこそが「価値」とみなされがちな世にあって、「永い時間」続くということの価値を読み解くこと、それを構想する概念装置を獲得することが鍵となります。

《参 考》2013～16 年度使用文献: 山下祐介『東北発の震災論—周辺から広域システムを考える』(ちくま新書、2013)／2012 年度使用文献: 吉田文和『グリーン・エコノミー—脱原発と温暖化対策の経済学』(中公新書、2011)、広井良典『コミュニティを問いなおす—つながり・都市・日本社会の未来』(ちくま新書、2009)

分野 14:「社会を批判する<作法>」(社会文化領域から)

ここでは、「社会的なもの」を分析・批判する際の基本的なスタイルを学習し、社会学的な読解力と構想力の育成を目指します。社会学的なものの見方は、いわば「良い」社会が生み出され、発展・成長していく中でのパラドックスを見るものでした。例えば「平等」という善が、個々人が何を目標にするかということへの不安・アノミーをもたらしたり、「自由」という善が、個々人に何をしたいのか分からない焦燥を駆り立てたりする、といったものです。このように、企業・組織などの「大きな」社会から、友人関係・恋愛関係などの「小さな」社会に至るまで、「良いことは「本当」に良いのか?」、「私たちは今の社会で何をやらされているのか?」といった素朴な「疑問」を、問うべき「テーマ」にまで引き上げることを目標とします。

《参 考》2012～16 年度使用文献: 見田宗介『現代社会の理論—情報化・消費化社会の現在と未来』(岩波新書、1996)、見田宗介『社会学入門—人間と社会の未来』(岩波新書、2006)、佐藤俊樹『桜が創った「日本」—ソメイヨシノ起源への旅』(岩波新書、2005)、本田由紀他『ニートって言うな!』(光文社新書、2006)

【メディア社会専攻】

メディア社会専攻では「メディアを多角的に読み解く力の獲得」を目指します。「分野」としては、以下の3つに分かれています。テーマの違いはあれ目指すところは、同じです。各自の興味関心に基づいて「分野」を選び、そこで、「読み」「書き」「分析」といった作業をとおして、さまざまな角度からメディア社会を考える力を高めていきましょう。

分野 21:「社会とメディア」

メディア社会専攻の研究では、その研究で扱うコンテンツがとりあげた「社会の出来事」を正確に理解することが前提となる。例えばジャーナリズムの研究では、ニュースが伝える社会問題やその背景を知って初めて、重要な情報が正確に伝えられているか、などの分析を行うことができる。ドラマや映画なども、テーマのもとになっているのは、実際に起きた事件であり、その作品を理解するためには、経緯を知らなければ、深い理解はできない。

「社会とメディア」では、新聞の記事を入りに政治・社会・経済の問題を取り上げ、その問題について過去の記事を検索するなど、基本的な理解をしたうえでディスカッションを行い、

意見を表明するためのボキャブラリーや表現のしかたを身につける、いわば「市民のリテラシー」を獲得することを目指す。まずは新聞を毎日読み、関心を持った問題から掘り下げてみてほしい。

私たちは日本や世界で起きている様々な出来事について、主にメディアを通じて知ることができる。しかしメディアから流れてくる情報を漠然と／受動的に受け入れているだけでは、独立した市民としての判断能力を培うことは不可能である。そこで本分野では、新聞その他のメディアを通じて、社会・政治・経済問題について基礎的な理解と見解を身につけること、つまり「市民リテラシー」を獲得することを目標としている。新聞その他のメディアを深く読み解いていく中で、受講生は「そんなことも知らなかったのか」と気づくことも多いはずである。さらに、自分なりに理解した社会問題について、それを他人に伝えていく際の表現上の工夫についても学ぶ予定である。

分野 22:「文化とメディア」

テレビ、マンガ、映画、インターネット、携帯音楽プレーヤー——現代のわれわれはさまざまなメディアに囲まれ、それを当り前のものとして生活している。しかし、よくよく考えてみると、そこには意外なことも少なくない。

リモコンで手軽にチャンネルを切り替えることができる現在とそれ以前とでは、テレビの見方はどう違うのか。DVD というメディアで映画を見ることができるようになった現状と、映画館でしか鑑賞でなかった時代とでは、映画に対する人々の姿勢はどう異なっているのか。CM、テレビ番組、マンガ、アート(美術)等のなかで、ジェンダーやセクシャリティ、あるいは「日本人らしさ」はどのように描かれているのか。

「文化とメディア」領域では、ポピュラー・カルチャーも視野に入れながら、メディアと文化と社会の関わりについて考察する。前半はメディア文化研究書の輪読を行う。後半は各自が研究入門書を読み、メディア分析の実践を行うことで、現代のメディア文化を多角的に読み解く力を養っていく。

分野 23:「グローバル化とメディア」

本分野では、デジタル化やインターネットの普及にともなうメディア環境の変化や急速に進むグローバル化の流れを踏まえ、国際的な視野をもちながら日本のみならず世界のメディアを研究の対象とする。新聞・雑誌・テレビ・映画・広告・マンガ・音楽・アート(美術)など教員の専門性や学生の興味・関心に応じて幅広いメディアを扱いつつ、文献も講読しながらグローバル時代のメディア研究の基礎を学ぶ。個別のテーマとしては、同じ出来事であっても国によってどのような報道の違いがあるのか国際比較をする、海外の広告分析からその国の社会・文化を考察する、日本や日本人が海外の映画でどのように表象されているのか、また日本のメディアは外国・外国人をどのように表現しているのかを分析することで自己と他者のメディア表象を考える、マンガやアニメといった日本のメディア文化が海外でどのように受け入れられているのか等のテーマが考えられる。

〔スポーツ社会専攻〕

スポーツ社会専攻では、「活字で学ぶスポーツ」というテーマで、スポーツに関する活字メディア(新聞や書籍等)を通して、スポーツの文化やそれを取り巻く社会との関連について学びます。本専攻では 2 つの分野を設定しますが、両分野は厳密に区別できるものではなく、しばしば重複する点もあります。いずれの分野も、身近に考えてきたスポーツというものを対象化し、

活字メディアを通して考えてみることで、自分たちの抱えているこれまでのスポーツの見方をあらためて相対化し、新しい「スポーツ概念・価値」を考案する場にしていきたいと思います。

分野 31:「スポーツ文化を学ぶ」

現在、スポーツは、多くの人々に様々な形—たとえば、競技者もしくは観客としてのスポーツへの参加やファッション・アイテムとしてのスポーツ・ウェアの着用のように—で享受されています。まさに、スポーツは単なる身体運動としてのみ存在するのではなく、人間によって創造された多様な文化様式として存在しています。そこで、スポーツとはどのような文化で、どのような発展をしてきたのか。また現在、スポーツ文化はどのような問題を抱えているのかという疑問を、歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に掲載されているスポーツ事象を通して学ぶことにします。ここで取り上げられるテーマとしては、たとえば「スポーツと暴力:ボクシングは本当にスポーツなのか?」、「なぜ、スポーツにおいて、ドーピングは認められないのか?」「スポーツと競争:なぜ、勝利至上主義は批判されるのか?」、さらには「スポーツとジェンダー:スポーツにおける男女平等とは何か?」といった多種多様なテーマについて考えていきたいと思います。

分野 32:「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」

スポーツと政治、経済、メディア、教育といった近現代社会における諸領域を、スポーツを通じて総合的・批判的に捉えることを目的とします。スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、文献、雑誌、新聞などを通して学びます。ここで取り上げられるテーマとしては、例えば、「オリンピックやワールドカップといったメガ・スポーツイベントが社会にもたらす影響(オリンピック・レガシーや経済波及効果等)」「近現代日本社会におけるスポーツマンガの役割と機能」「現在のグローバルメディアとスポーツとの関連」「IOC や FIFA 等の国際的競技組織・団体におけるグッド・ガバナンスの展望」、さらには「ファシズムにスポーツはどのように関わったのか」といった多種多様なテーマについて考えていきたいと思います。

〔子ども社会専攻〕

分野 41:「教育体験を概念的に把握する」

基本テーマは「教育体験を概念的に把握する」ことにあります。これまでの初等教育や中等教育において、被教育者であったみなさん一人ひとりが、1 年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を振り返り、その体験を構造的に把握し、3 年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標とします。さらに、学校で学んだ経験がその後の世界で生きていくこととどのような関連にあるのかを検討します。

教育の問題を語るとき、必ず自分自身の教育体験(被教育体験)をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、吉川徹『学歴社会のローカル・トラック』(世界思想社、2001 年)を共通テキストとします。このテキストは、「世代間移動と地域間移動」「ライフ・ヒストリー」「ローカル・トラック」をキーコンセプト(鍵概念)として、学校経験と社会移動の関連を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。

プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたっては、受講生の生活体験や学校体験を出し

合い、その経験の違いを理解することを前提としてテキストの読解に入っていきます。セメスター末のレポート作成においては、テキスト読解という共通理解をもとにして、そのなかで履修生が発見した固有のテーマを論じていくことにします。

〈到達目標〉

- 1 自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
- 2 学ぶ立場から、他者に説明する立場への転換をはかることができる。
- 3 ゼミという公共の場で、他者にわかるように伝えるという方法を身につける。
- 4 社会構造とその主体のあり方について理解する。
- 5 データとその意味理解などを含めて、テキスト読解の基礎を身につける。

〔人間福祉専攻〕

人間福祉専攻では今日的な「福祉」について学びます。「福祉」の意味は歴史的に変遷してきましたが、今日の「福祉」の中心的な意味はウェルビーイング (well-being) であり、「幸せに暮らす」、「よりよく生きる」ということです。人間福祉専攻では、私たちが生涯を通して、様々な人たちとかかわりをもちながら、自らを発達させ、よりよく生き、幸せに暮らすには何が必要であるかを考えます。学びの着眼点として、さまざまな人や社会的制度とのつながりにおいて福祉を考える「福祉社会」と、人が成長、発達する過程に即しながら福祉を考える「臨床福祉」の2つを取り上げて、それらを分野としました。しかし本来、これらは分かちがたく結びついているものであり、それぞれの分野の重点とするところが異なっているだけです。互いに深く結びついていることをよく理解して学んでいきましょう。

分野 51:「福祉社会」

この分野では、子ども、障がい者、高齢者を主たる対象者として設定し、それらの人々を取り巻く家族、学校、職場、地域、社会にも視野を広げ、ボランティア集団や NPO 法人などの様々な社会運動や社会的ネットワークの動向にも着目しつつ、最終的には福祉制度、社会政策などのあり方について検討していきます。さらには国際比較やジェンダー、貧困等の視点も取り入れながら、社会的連帯や共生のあり方などについて考察し、これからの福祉社会を展望していきます。そのために必要となる福祉問題にかかわる政治、経済、社会、文化などに関する基礎的な知識を養いつつ、公正、平等、権利、自由といった普遍的価値に関する理解が深められるように学んでいきます。

分野 52:「臨床福祉」

この分野では、人間福祉の諸課題を臨床福祉(個別的対人援助)の視点からとらえ、人びとが社会生活のなかで直面する各時期の発達および福祉の諸課題を、子ども、青年、高齢者、ジェンダーといった切り口において学んでいきます。具体的には、育児や子育て、児童虐待、発達障害、非行、いじめ、不登校、ひきこもり、ニートや自己アイデンティティの喪失、中年期クライシス、若年性認知症、高齢者介護、ホームレス、障害者や女性の自立困難など、現代社会において個人や家族が直面する諸課題からテーマを設定し、これらの人間福祉の諸課題について、直接的な援助のあり方としての臨床の視点からアプローチしていきます。

Ⅲ. 履修のルール

1. 受講対象・配当回生

産業社会学部の2回生(現1回生)全員が受講しなければなりません(2回生履修指定科目)。

2. 受講期間・受講科目・単位数

2回生前期に「プロジェクトスタディⅠA」、後期に「プロジェクトスタディⅡA」(各2単位)を履修します。

3. 「分野」と受講クラス・定員・担当教員

(1)各「分野」には複数のクラスが開かれ、学生の皆さんは、2回生開始時に指定されるクラスに所属して学修を進めます。1クラスの定員は20名程度で、1回生の「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」に比べて格段の少人数化を進め、より丁寧な指導を目指しています。

(2)授業はクラスごとに進められます。所属するクラスが異なっても「分野」ごとにシラバスや教材、成績評価方法が共有されます。

(3)クラスの担当教員は、所属クラスとともに1回生後期成績発表時(3月下旬)に発表されます。

4. 受講登録と単位授与

「プロジェクトスタディⅠA」(前期)、「プロジェクトスタディⅡA」(後期)は、指定されたクラスを大学が一括して受講登録します。受講登録の修正や辞退はできません。

単位授与分野は、専門科目のうちの「学部共通専門科目」です。

IV. 履修の手続き

1. 履修手続きの流れ

9 月 16 日(金)	ガイダンス	「プロジェクトスタディ I A・II A」のしくみや履修方法, 受講手続きなどについて, 説明を行います。
9 月 16(金)AM10:00～ 10 月 3 日(月)PM5:00 迄 ※申請システムの運用 停止時間帯あり下記参照	学びたい分野の 希望申請	「プロジェクトスタディ I A」(前期), 「同 II A」(後期)で学びたい分野について WEB からエントリーしてください。
11 月中旬	申請内容メール 確認	申請内容を 11 月中旬までに CAMPUS WEB に配信します。必ず, 申請内容に相違がないか確認してください。
1 回生後期成績発表時 (3 月下旬)	学ぶ分野と所属 クラス, 担当教 員の発表	「プロジェクトスタディ I A」(前期)と「同 II A」(後期)それぞれで学ぶ分野と所属クラス, 担当教員を発表します。受講登録は大学が一括して行います。
2 回生前期	プロジェクトスタ ディ I A の受講	発表された分野のクラスで受講を進めてください (分野, クラスの変更はできません)。
2 回生後期	プロジェクトスタ ディ II A の受講	発表された分野のクラスで受講を進めてください (分野, クラスの変更はできません)。

2. 学びたい分野の希望申請

2 回生前期の「プロジェクトスタディ I A」, 後期の「プロジェクトスタディ II A」で学びたい希望の「分野」をWEBから申請してください。プロジェクトスタディの申請と同時にダブルメジャーの申請も行います。

(1)日程…**9 月 16 日(金)AM10:00 から 10 月 3 日(月)PM5:00 まで**

※運用停止時間帯:毎週水曜日 PM7:30～AM5:30, 水曜日以外 AM4:30～AM5:30

運用停止時間帯は申請できませんので注意してください。

※申請期間中は何度でも変更できますが, 締め切り後の変更はできません。

上記の期間内に WEB から申請した学生は, 期間内に申請しなかった学生に比べると優先的に希望の分野に所属することができます。必ず, 期間内に申請するようにしてください。

(2)申請方法

申請は WEB 上で行います。

申請 HP の URL は 9 月 16 日(金)AM10:00 に CAMPUS WEB へ配信します。

CAMPUS WEB 掲示板の「履修」「受講登録・試験・成績」カテゴリに配信します。

① 前期「プロジェクトスタディⅠA」

所属専攻の分野から次のとおり選択をしてください。

- ・現代社会専攻・メディア社会専攻は、第 3 希望まで登録してください。
- ・スポーツ社会専攻・人間福祉専攻は、第 2 希望まで登録してください。
- ・子ども社会専攻は第 1 希望のみ登録してください。

② 後期「プロジェクトスタディⅡA」

所属専攻に関係なく、すべての専攻の分野から第 4 希望まで申請できます。申請の段階では所属分野が決まっていないので、『前期』と『後期』に同じ分野を申請することは可能です(ただし、子ども社会専攻については分野が一つのみですので、後期は他の専攻の分野から選択しなければなりません)。なお、前期と同じ分野に所属することはありません。

11 月中旬に申請内容を CAMPUS WEB へ配信します。必ず、申請内容に相違がないか確認をしてください。万一相違があった場合には、CAMPUS WEB への配信メール内に記載されている期日まで産業社会学部事務室窓口へ相談に来てください。期日以降はシステムへの登録の関係上、相談に応じられません。

3. 学ぶ分野, 所属クラス等の発表

1 回生後期成績発表時(3 月下旬)に、「プロジェクトスタディⅠA」(前期)と「プロジェクトスタディⅡA」(後期)のそれぞれで学ぶ分野と所属するクラス, 担当教員を発表します。分野, クラス, 担当教員は変更できません。なお学ぶ分野は, 特定の分野に希望が偏った場合には, 抽選により, 第 1 希望以外となる場合があります。

4. その他

本要項の内容に変更があった場合には、CAMPUS WEB を通して連絡します。

開講期間中は必ず CAMPUS WEB を毎日チェックするようにして下さい。

以上

後期受講登録にあたって(1 回生用)

1. 2016 年度後期受講登録に関するスケジュール

日程	内容
9 月 26 日 (月)	・後期セメスター授業開始日
9 月 26 日 (月) 午前 10 時～ 9 月 28 日 (水) 午前 11 時	・後期修正登録期間 受講登録修正は CAMPUS WEB「受講登録(授業コード形式)」機能を利用して各自で行います。登録の修正ができるのは、本登録科目のみです。
10 月 7 日 (金) 午前 5 時半～	・後期受講登録修正後の個人別時間割表公開 CAMPUS WEB「個人別時間割表(卒業見込確認)」から確認してください。対象は後期修正登録期間に修正した学生です。
10 月 6 日 (木) 午前 10 時～ 10 月 13 日 (木) 午前 11 時	・後期修正登録失念者申し出期間 後期修正登録をし忘れた学生対象。ただし、前期に失念者登録の申請をした学生は申請できません。申し出および登録の方法については、後期修正登録期間終了後に CAMPUS WEB で通知します。
10 月 17 日 (月) 午前 10 時～ 10 月 18 日 (火) 午前 11 時	・後期修正登録失念者登録期間 失念者申し出期間に申請し、許可された学生対象。登録の修正ができるのは、本登録科目のみです。
10 月 24 日 (月) 午前 10 時～ 10 月 26 日 (水) 午前 11 時	・受講辞退期間 受講辞退は CAMPUS WEB「受講登録(授業コード形式)」機能を利用して各自で行います。辞退ができるのは、本登録科目のみです。
11 月 3 日 (木) 午前 5 時半～	・受講辞退後の個人別時間割表公開 受講辞退者・失念者登録期間に登録修正した学生は、CAMPUS WEB「個人別時間割表(卒業見込確認)」から確認してください。

※後期開講にあたって各種履修ガイダンスや追加募集、教室変更等、授業に関するお知らせが CAMPUS WEB で案内されます。こまめに掲示板や個人通知を確認して下さい。

特に受講者数の関係で後期の教室を変更している授業が多数ありますので、CAMPUS WEB の「授業連絡」を確認してください。

2. 後期受講登録にあたって

受講登録にあたっては、前期に配布した「2016 年度履修・登録の手引き」「学修要覧」を参照してください。これらは、産業社会学部ホームページトップ→「在学生のみなさまへ」のページからも閲覧可能です。<http://www.ritsumeai.ac.jp/ss/student/>

<注意>

- ①受講登録制限単位数の 44 単位には前期に F 評価となった科目の単位数も入ります。
- ②前期 F 評価をとった科目を後期に再度受講登録する場合は、通常の登録方法だとエラーがでて登録できないので、登録方法を CAMPUS WEB マニュアル P22 で確認してください。
- ③CAMPUS WEB の「問合せ」ボタンを送信しても事務室では対応しないので、各自で「学

修要覧」や「履修・登録の手引き」でカリキュラムを確認してください。それでも不明な点があれば、事務室まで来室してください。

- ④受講登録を行った翌日に CAMPUS WEB の「受講登録状況確認」機能で受講エラーが出ていないか確認してください。

3. 外国語単位回復科目の受講登録

外国語（英語および初修外国語）の単位を修得できなかった場合、「単位回復科目」を履修し、卒業要件の単位数を充足する必要があります。修得が必要な単位数に応じて履修方法および受講登録方法が決められていますので、外国語の単位を修得できなかった場合は、別紙「外国語科目(英語・初修外国語)の単位回復 受講対象者のみなさんへ(産)」を確認して下さい（以学館 2 階 Students Lab で配布、言語教育センターのホームページからも閲覧できます）。

<言語教育センターホームページの URL>

<http://www.ritsumeai.ac.jp/gengo/seika-manabi/>

立命館大学ホームページトップ→「在学生の方へ」→「（学部生）語学力を身につける」の「言語教育センター」→「正課授業で学ぶ」

<注意>

- ①英語の 1 単位の単位回復科目は選考科目です。受講希望者は言語教育センターホームページから以下期間内に申請をする必要があります。

申請期間：2016 年 9 月 16 日(金) 10 時 – 9 月 21 日(水) 12 時（正午）

- ②初修外国語既修者対応プログラムの学生は、単位回復科目を受講することはできません。単位未修得の既修者対応プログラム科目を履修してください。

4. 日本語科目のクラス変更（留学生のみ）

日本語科目と学部が受講を指定する科目（ライティングリテラシー等）の時間割が重複している場合、産業社会学部事務室に来室してください。日本語クラスを変更する場合は、産業社会学部事務室に来室後、国際教育センターで 9 月 27 日（火）午後 5 時までに手続きが必要です。その締め切りより前に産業社会学部事務室に来室してください。

5. 一括登録科目

(1)9 月に受講登録される一括登録科目

9 月に受講登録される一括登録科目は以下の通りです。

対象回生	科目名	単位数	備考
1 回生	ライティングリテラシー	2	受講免除者は対象外
	社会調査士 I	2	社会調査士課程履修許可者のみ対象
	社会調査情報処理	2	
	国際社会入門	2	グローバル・フォーカス履修許可者のみ対象
	多文化共生論	2	

※一括登録科目の指定クラスは、9 月 16 日（金）午前 10 時に CAMPUS WEB「Web 掲示板」の個人通知にてお知らせしますので各自確認してください。

(2)ライティングリテラシーについて

P 19 を参照してください。

6. 教養科目・サービスラーニング科目(選科目・選考科目)の追加登録

後期に追加登録を受け付ける科目があります。追加登録の対象科目やクラスは教養教育センターのホームページを確認してください。なお、追加登録の受付も教養教育センターのホームページからの登録になります。

＜教養教育センターホームページ＞

<https://secure.ritsumeai.ac.jp/students/liberalarts/student/>

CAMPUS WEB から『学びのサポート』の「教養教育」→右上の「在学生の皆さんへ」をクリック

7. Students Lab(以学館 2 階)での配布物

ガイダンス会場での配布物以外に、各種プログラムの案内など多数の配布物を Students Lab に置いているので、自身に必要なものがないか、確認してください。

8. 成績通知表の単位集計欄に関する説明

＜集計欄の見本＞

科目区分	必要	修得
教養科目(合計)	20	10
A群(教養基盤科目)	12	10
B群(国際教養科目)		
C群(社会で学ぶ自己形成科目)		
D群(スポーツ・健康科目)		
E群(学術総合科目)		
学部独自教養科目		
外国語科目(合計)	12	5
英語	8	3
中国語	4	2
専門科目(合計)	62	6
学部共通専門科目	20	4

(4)

科目区分	必要	修得
●●専攻専門科目	42	2
専門導入科目	6	2
専門展開科目	36	
自由選択科目(合計)		
情報リテラシーⅢ(要卒算入は6単位まで)		
他学部専門科目		
自由科目(要卒外)		

(1) 総修得単位 23

卒業必要単位 124

(2) 同総修得単位 21

今年度GPA 3.00

累積GPA 3.00

(3) 累積登録単位 25

(1)「総修得単位」…これまでにあなたが修得した単位数の合計です。ここには、卒業に必要な単位のほか、自由科目(卒業要件の対象外になる科目)の単位などすべての単位が算入されます。

(2)「同総修得単位」…これまでにあなたが修得した単位数のうち、卒業に必要な単位数の合計です。自由科目(卒業要件の対象外になる科目)の単位は算入されません。

(3)「累積登録単位」…あなたがこれまでに受講登録した単位数の合計です。ただし、「P評価やN評価で単位を修得した授業科目」および「自由科目」など、GPAの計算に算入されない授業科目は含まれていません。

(4)「自由選択科目」…卒業するためには、教養科目(20単位以上)や外国語(12単位)、専門科目(62単位以上)のなかから最低必要単位数を修得しなければなりません。卒業要件単位数124単位までには、なお30単位の修得が必要になります。この30単位については外国語以外の

各分野から必要単位数以上を修得するか、自由選択科目として単位授与される科目の単位を修得する必要があります。

例) 教養科目を 30 単位修得した場合、教養科目の必要単位数 20 単位を超えた「10 単位分」が自由選択科目となります。

例) 他専攻の専門展開科目の単位を修得した場合、全て自由選択科目になります。

(5) その他

◆教養科目

- ・ A～E 群および学部独自教養科目の単位数は、「教養科目（合計）」の内数です。

◆外国語科目

- ・ 各自で選択し許可された外国語コースによって語種・必要単位数は異なります。また、語種毎の単位数は「外国語科目（合計）」の内数です。

◆専門科目

- ・ 「学部共通専門科目」、「●●専攻専門科目」の単位数は、「専門科目（合計）」の内数です。
- ・ 「専門導入科目」、「専門展開科目」の単位数は、「●●専攻専門科目」の内数です。

◆自由選択科目

- ・ 自由選択科目の内訳に分野名が記載されていなくても、自由選択科目として集計される科目があります。キャリア形成科目、社会調査士Ⅰ～Ⅲ、情報リテラシーⅢ、他専攻専門導入科目、他専攻専門展開科目、他学部専門科目などの単位数は、自由選択科目（合計）に集計されます。

◆自由科目

- ・ 卒業要件の対象外になる授業科目の単位が記載されます。

※教職課程の科目のうち、科目名が（教）で始まる科目（一部科目除く）は自由科目になりますが、自由科目の集計欄には記載されません。(1)「総修得単位」の集計欄には記載されます。

9. 成績確認制度

以下の場合、9 月 21 日（水）午後 5 時までに成績確認制度の申請をすることができます。申請場所は産業社会学部事務室です。

1. 受講登録をしたが、成績評価の記載がない科目
2. 受講登録をしていなかったが、成績評価が記載されている科目
3. シラバスにある成績評価基準を満たしていなかったが、有効評価（「A+」「A」「B」「C」「P」と記載されている科目
4. 受講登録し、シラバスにある成績評価基準を満たしたにもかかわらず、「F」評価となった科目

10. 成績証明書の発行

成績通知表とは別に、成績証明書も 1 通 100 円で発行することができます。成績証明書は 9 月 26 日（月）から発行することができます。証明書の発行方法は以下を参照してください。

<証明書、証紙、学割証、通学定期券購入について>

<http://www.ritsumei.ac.jp/infostudents/certificate/>

立命館大学ホームページトップ→「在学生の方」→「証明書、証紙、学割証、通学定期券購入について」

ライティングリテラシーについて

「ライティングリテラシー」（月曜日 3 限または 4 限）の受講は、前期セメスターの定期試験期間中に実施したプレースメントテストの結果に基づき、「基礎クラスの受講」または「受講免除」が決定されます。なお、プレースメントテストを受験しなかった場合は、「基礎クラスの受講」となります。

後期の受講に関わる大切な事項となりますので、必ず確認してください。

■受講クラスの発表について

受講クラスは 9 月 16 日（金）10:00 に CAMPUS WEB 「個人通知」にて発表します。

【受講クラス発表の見方について】

クラス欄	後期の受講	受講登録について
SA・SB・SC SE・SF・SG	指定された「ライティングリテラシー」 基礎クラスを受講してください	「一括登録科目」のため、受講登録は不要です。 事務室で指定クラスの受講登録を行います。
受講免除	「ライティングリテラシー」の 発展クラスを受講したい	以下の「発展クラスの受講について」を確認し、 期間内に申請してください。
	「ライティングリテラシー」 は受講しない	他の科目の受講が可能です。受講登録修正期 間に CAMPUS WEB から登録して下さい。

* 「受講免除」であっても発展クラスを受講しない限り、単位認定はされません。

■発展クラスの受講について

プレースメントテストの結果により、「受講免除」となった学生は、希望する場合「発展クラス」を受講することができます。受講を希望する学生は、以下を確認の上、CAMPUS WEB の個人通知画面から申請期間内に申請して下さい。

科目名	クラス	開講時限	定員
ライティングリテラシー 「発展」	SD	月曜日 3限	40 名
	SH	月曜日 4限	40 名

（注意事項）

- ・一度申請すると申請期間外での取消・辞退はできません。（ライティングリテラシーは一括登録科目のため受講辞退期間にも辞退することはできません。）
- ・定員を超えた場合は抽選で受講生を決定します。
- ・受講時限の指定はできません。いずれかに割り振られ、変更はできません。
- ・評価方法、科目の具体的な内容等の詳細については、シラバスを確認してください。

●発展クラス受講申請期間

9 月 16 日(金)～9 月 23 日(金) 10:00 厳守

●申請方法

受講申請期間内に CAMPUS WEB の個人通知画面から申請してください。

●申請結果発表・発表場所

9 月 23 日(金) 17:00 に CAMPUS WEB にて発表します。